

第20回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	女性と防災の会
開催日時	平成31年2月2日（土）14:30～17:30
テーマ	高橋治郎先生のここだけの話 地形と災害 ハザードマップをどう活用する
形式	講演とワークショップ
講師等	愛媛大学名誉教授・客員教授 高橋 治郎
参加人数	合計 42名（女性 24名, 男性 18名）
実行委員数	合計 8名（女性 8名, 男性 0名）

〈内容〉

1. 室内展示による活動報告

7月豪雨災害（西予市野村、宇和島市吉田への視察と支援）

8月浪江町視察（福島県いわき市、浪江町、宮城県仙台市の現状）

2. 高橋治郎氏（愛媛大学名誉教授・客員教授）による講話

地名・町名などから災害をイメージし、重信断層や地形、地質を知る。

3. ワークショップ前半「地名や地形から災害を読み取り、地図に落とし込む」

中山間地域、平地・河川地域、市内中心部、海岸地域に分けたA0大地図に、班ごとに話し合いながら災害が発生しそうな場所や危険か所に目印を入れ、災害をイメージする。

4. 非常食の試食を兼ねた休憩

（飴、チョコレート、ナッツ、ドライフルーツ、お魚ソーセージ、簡単カップぜんざい、カップスープなど身近な食材での非常食の提案）

5. ワークショップ後半「自宅周辺地域の危険性を認識する避難行動意識を高める」

個々に持参した防災マップを見ながら自宅周辺の危険に目印をつけ、災害の種類による避難についてルートを考えて書き込んでもらう。

6. 質疑応答

〈参加者の声〉

○今、そこにある危機。（70代）

○地名にこめられた災害の起こりやすさなど学びました。（20代）

○意外な危険（耐震偽装とか、裏の大木とか）に気づいた。（20代）

○自分たちの住む町の地質の違いがあること。（30代）

○普段からどんな災害が起こり得るか考えておくことが大切！（60代）

○自分の町のことをよく知らないこと、もっと避難場所や避難方法をしっかり考えておく

地図を読み解く参加者の皆さん



ことに気づいた。(50代)

○防災マップに載っていない場所でも危険性があることを知ることができた。地域の防災活動に生かしたい。(70代)

○非常食備蓄を見直したい。(70代)

○災害食としてふだんのお菓子・缶詰も有効なことを広めていきたいと思う。(50代)

○異なる地域の方と一緒に作業することで、みんな同じではない、それぞれの防災・避難計画が必要と感じた(50代)

○高橋先生のお話はとてもわかりやすかったです。良い勉強になりました。行政の方や自主防災に関係する方たちにも参加していただきたいと思いました。(50代)

○「ここだけの話」で、いろんな角度から見方・考え方が学べて良かったです。(50代)

○雰囲気が大変良かった。別の地区の方と一緒にのため、様々な考え方やその地区の特性など知ることができた。(70代)

熱く語る講師と聞き入る参加者



〈まとめ〉

昨年は、地震に豪雨にと日本のいたるところで災害が発生していることから、タイムリーな企画だった。講師の「ここだけの話」では、地図から読み取れる地形や活断層、地名には土地の特徴があらわされていること、地域の歴史から自分たちの生活圏の災害を知ることの大切さが語られた。併せて、備えや

身の守り方、自主防災活動や共助にまで話が及び、参加者は熱心に聞き入った。

参加者の年齢幅は広いが、20～30歳代の参加者が少なく、内容は良いが時間が長いとの感想もあった。また、当初予定していたグループ発表の時間が取れなかったことは、大いに反省しなくてはいけない。

この度の分科会で参加者の防災力がアップすることを期待しつつ、過去の災害履歴と危険性等の情報が網羅されている“防災マップ”のさらなる活用を願っている。今後は、発災時の避難行動を視覚化したワークショップ「逃げ地図」にも取り組みたいと考えている。